

「互助型認知症セーフティネット」構築への取組み

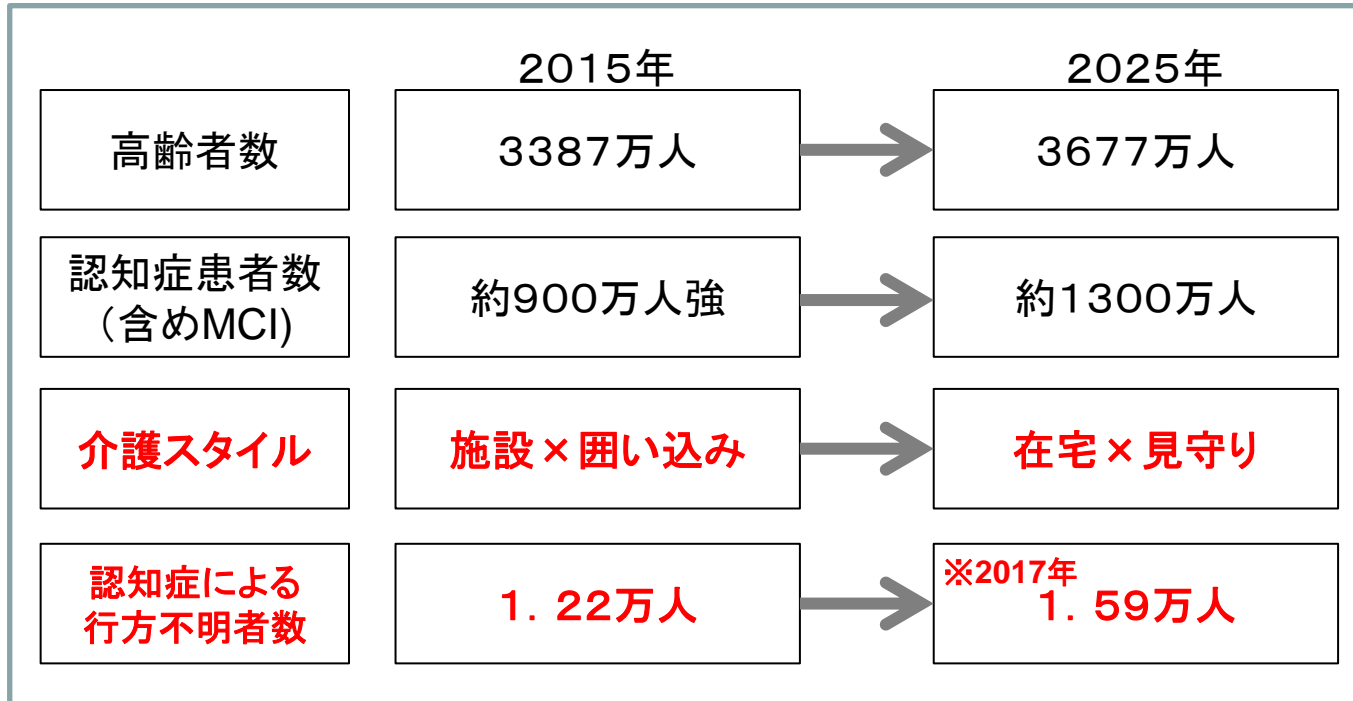
「認知症になっても安心して暮らせるまち」を目指して

2019年2月8日

認知症見守りセーフティネットワーク



地域の住民参加（互助）が大きなキーワードに



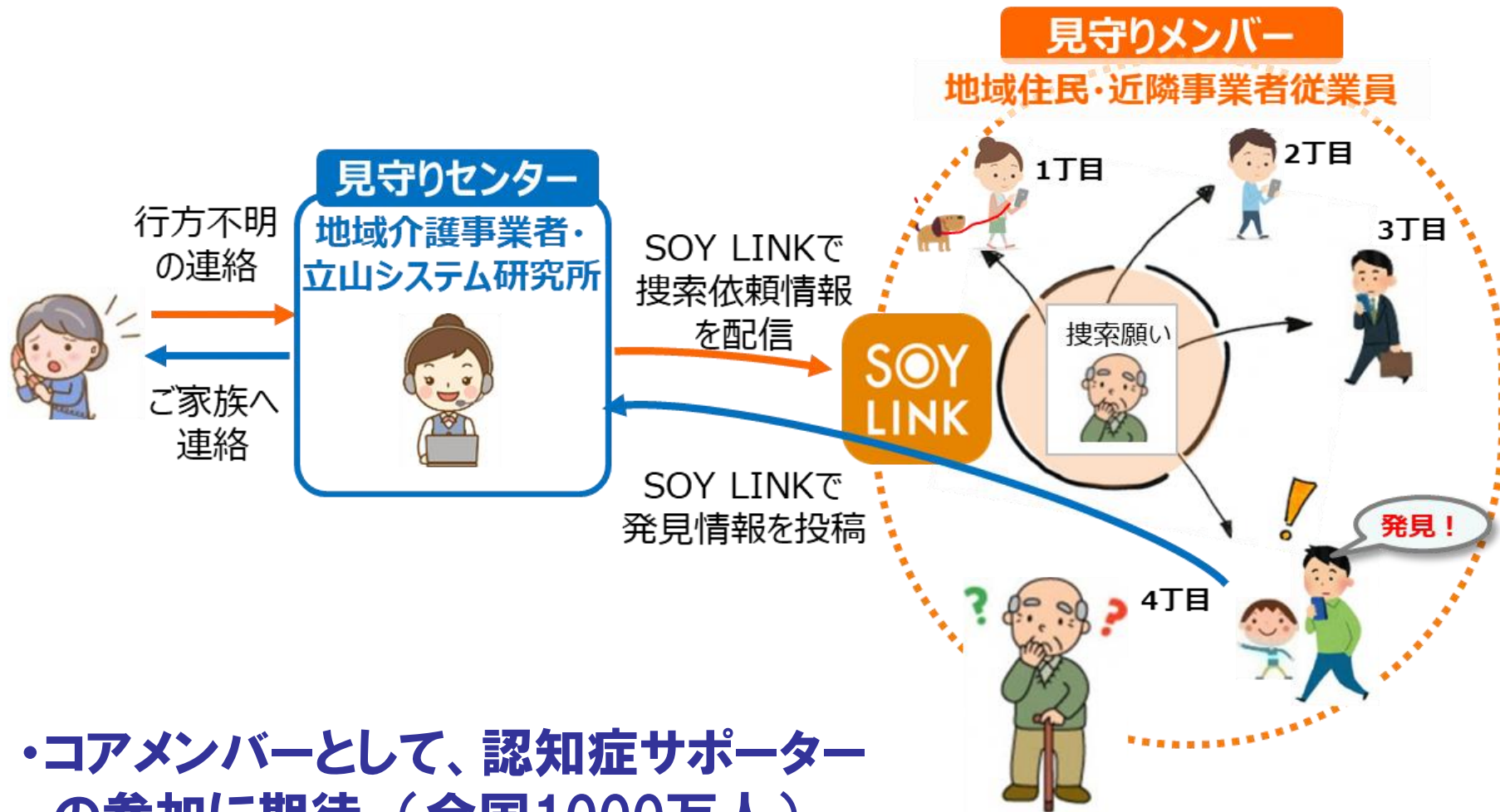
※出典(高齢者数:高齢者白書、認知症患者数:NHKスペシャル(2017/3/26放映)、行方不明者数:警察庁2018発表資料)

愛知県での認知症の方による鉄道事故で、遺族に損害賠償責任の判決

コストの壁に阻まれて、利用が進まない、成果が上がらない、
専門事業者による認知症行方不明者捜索サービス

地域コミュニティによる
認知症セーフティネット整備が急務

私たちは、我々地域住民自らによる
「認知症の行方不明者を見守る**人のつながり**」作りを提案しています



・コアメンバーとして、認知症サポーター
の参加に期待。(全国1000万人)



明治見守りセーフティ
ネット

12月 2日 11:20

訓練！【第1回】行方不明者情報

アライさん

男性

40代後半

身長170センチ 中肉中背

黒いダウンジャケット

ジーパン

紺のセーター

茶色い靴

髪は茶色

メガネなし

【注意】この情報を確認した検索チームのメンバーはページ下にあるgood!を押してください

。

👍 3 💬 9

👍 Good!

💬 コメントする



ホーム



メッセージ



マイコミュニティ



会員検索



明治見守りセーフティ
ネット

12月 2日 11:56

訓練！【第2回】行方不明者情報

カマタさん

女性

身長155センチ 細め

40歳代

茶色のジャンパー・ズボン

黒い靴

メガネあり

髪型 ショートカット

【注意】この情報を確認した検索チームのみならずは下のgood!を押してください。

SOY LINKの検索モードをオンにしてください

。

👍 11 💬 11

👍 Good!

💬 コメントする



ホーム



メッセージ



マイコミュニティ



会員検索

二年間で14回開催、約300名受講（明治地区）



5/15 メルシャン藤沢工場 職員



7/22 明治地区住民およびメルシャン職員



5/8 メルシャン藤沢工場 職員



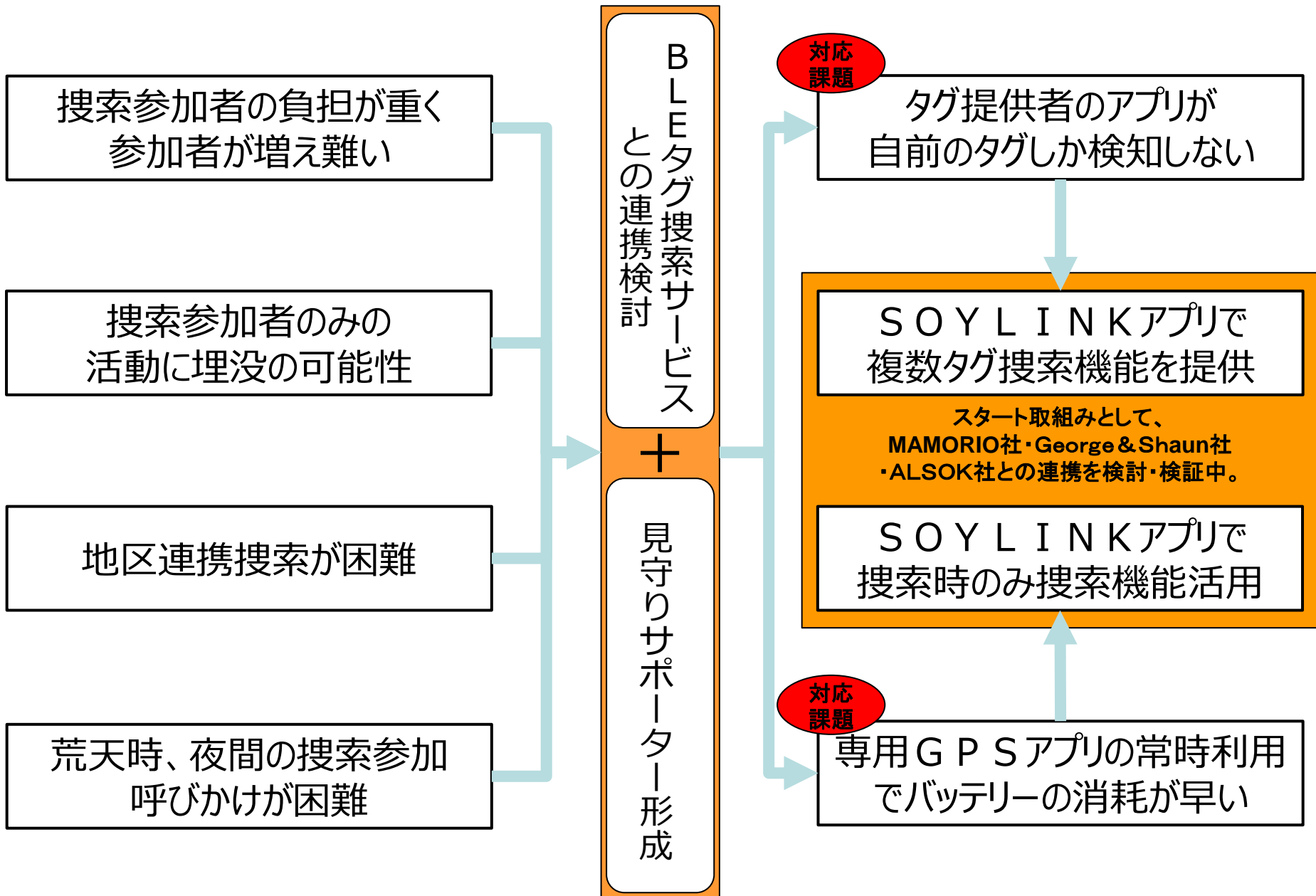
8/6 明治地区住民およびメルシャン職員



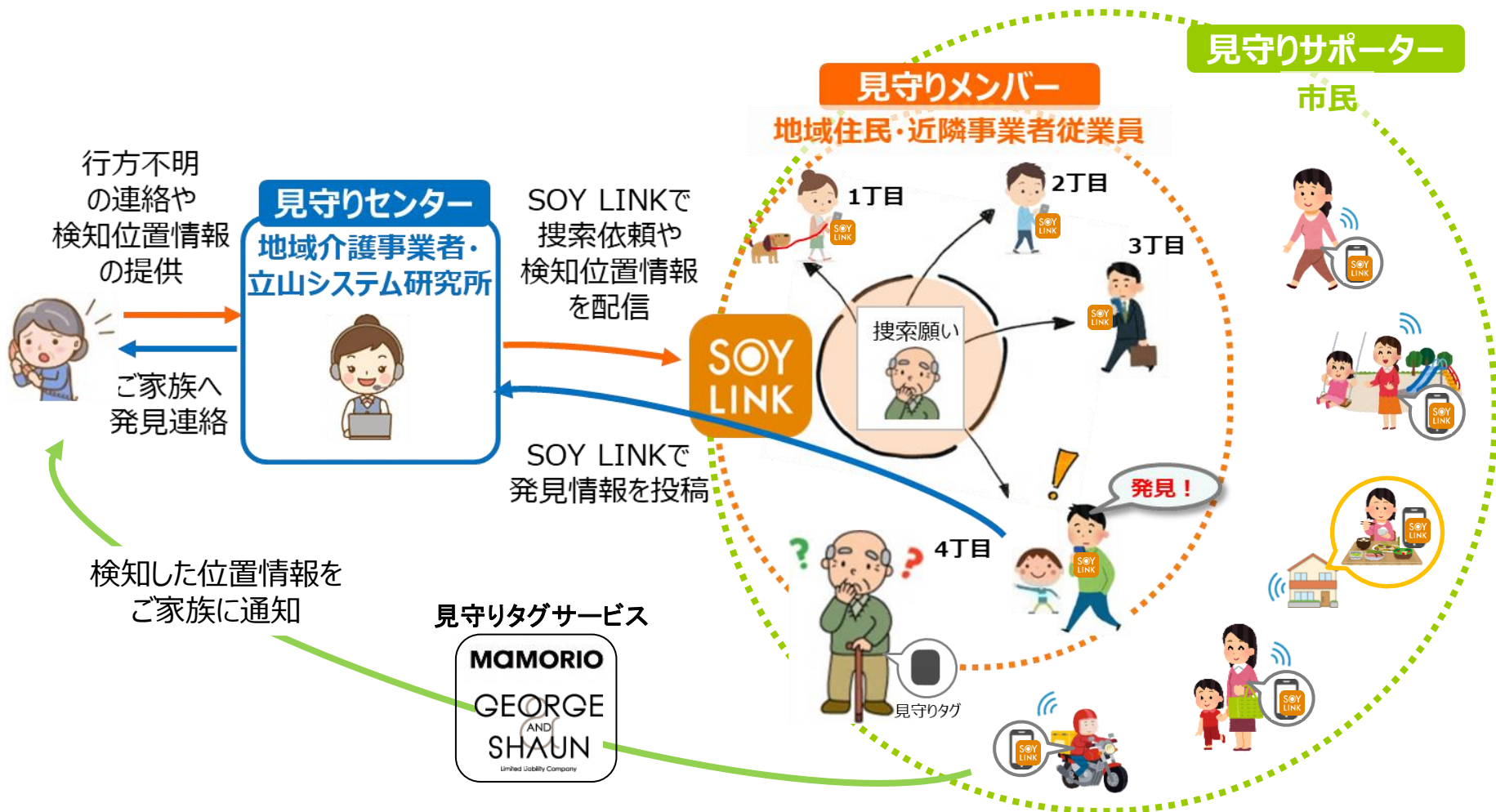
8/21 横浜銀行 藤沢支社 行員

二年間で7回開催、延べ450名参加（明治地区）



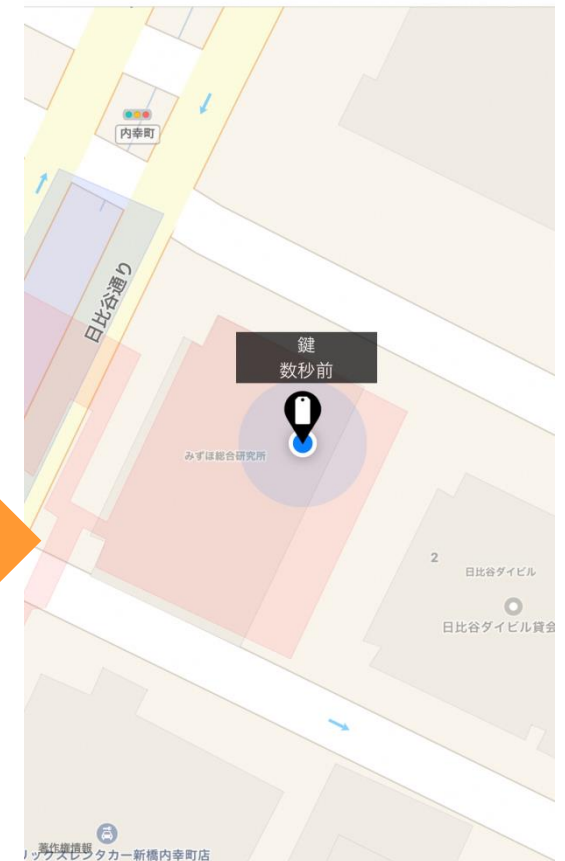


地域住民の搜索活動に加え、行方不明者が携帯するBLEタグを自動検知する機能を活用、搜索保護の効率化と早期化を目指す



SOY LINKアプリの半径10~30M以内のタグ情報を検出、通知が可能に

機能表示はMAMORIO社の事例



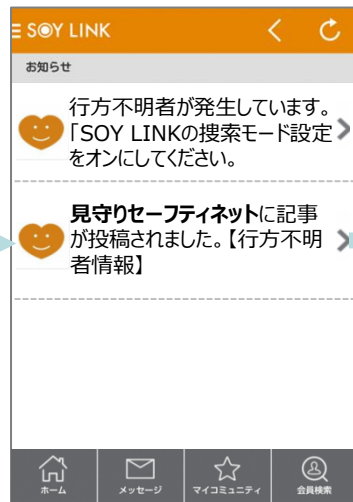
【検索依頼受信】

【不明者情報確認】

【検索⇒保護】

正規会員登録

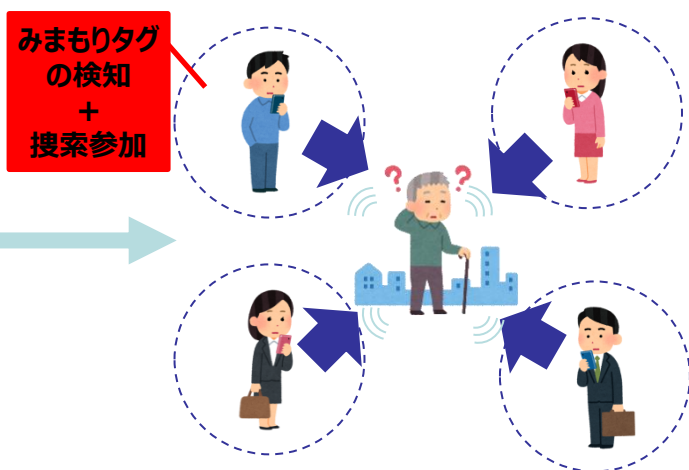
見守りメンバー



検索モードオン依頼 + 不明者情報



検索掲示板に不明者情報



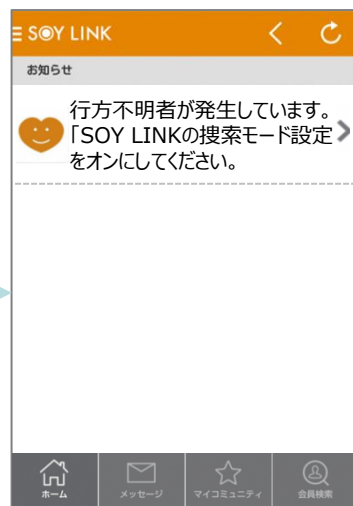
みまもりタグの検知 + 検索参加

検索モードをオンに設定
検索掲示板の情報を参考に検索参加

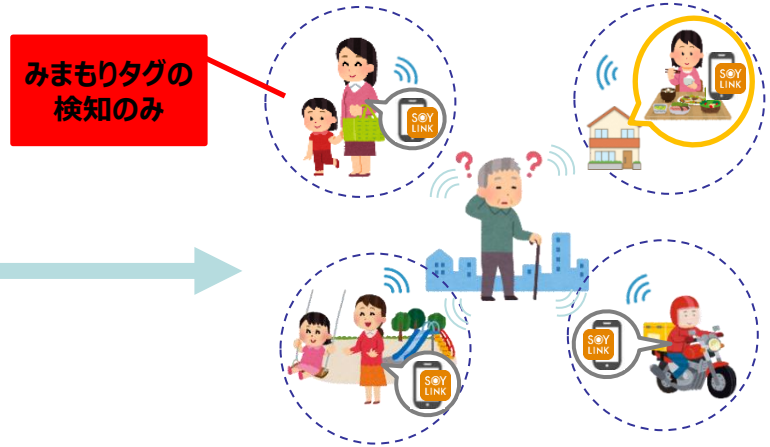
検索依頼

サポーター参加

見守りサポーター



検索モードオン依頼のみ



検索モードをオンに設定
検索はせずに通常的生活を続ける

※画面はイメージです。

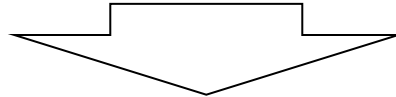
I C T 活用強化により、互助型認知症セーフティネットを進化させるために、
ウルトラ見守りチャレンジを開催し、BLEタグ活用での見守りサポーター取組みの実効性を検証する

検証内容：下記の実績データを収集しつつ、タグモニターの位置情報も加味し、搜索人数と検知時間の大きな関係性を検証する

	エリア：明治 人口：約3万人／面積：約3.7km ²			エリア：辻堂 人口：約4.3万人／面積：約4.4km ²		
	タグ①	タグ②	～タグ⑮	タグ①	タグ②	～タグ⑳
30分毎参加者						
ユニーク総参加者 (実施時間帯当り)						
最大参加者数 (実施時間帯当り)						
発見所用時間 (最初の検知までの時間)						
30分毎検知回数						
ユニーク検知者数 (実施時間帯当り)						
総検知回数 (実施時間帯当り)						

藤沢市と大牟田市で
実証検証取組み

- ・取組みのモデル開発・ノウハウ開発
- ・民間企業の取組み支援体制作り



1. 住民(自治組織) × 民間企業 × 行政

行政と民間企業が連携することにより、住民が参加しやすい環境を、
先ず立ち上げることが可能



- ・運用しながら整備可能
- ・地区別導入可能

2. 人間ネットワーク × I T システム

住民が主役の見守りネットワーク作りにスマホを活用、さらに住民の
参加率向上を目的に I T (位置情報捕捉システム) の仕組みを活用
※他社のBluetooth活用型の位置情報捕捉取組みと連携可能



- ・住民主体のしくみ
※認知症サポーター活用
- ・I T に頼り切らないしくみ

3. メンバー × サポーター

自治組織による検索ネットワークをコアに、体験イベント「見守り
チャレンジ」を通じて、一般住民の多世代参加を拡大



- ・住民全員参加へ
- ・平時の見守り効果

**認知症になっても
安心して暮らせるまちを目指して**

知恵と地域のリソースを結集